



TITLE:

<報告>就任御挨拶とスタッフの御紹介

AUTHOR(S):

寺松, 孝

CITATION:

寺松, 孝. <報告>就任御挨拶とスタッフの御紹介. 京都大学結核胸部疾患
研究所紀要 1972, 5(1): 87-88

ISSUE DATE:

1972-01-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/52323>

RIGHT:

就任御挨拶とスタッフの御紹介

胸部外科学部門 教授
寺 松 孝

昭和46年4月1日、胸部外科学部の教授に就任、既に半年近くになりました。就任に際しての抱負も、芝蘭会報に書いております。

このような状態ですので、何となしに、また就任に際しての抱負を述べるのが面映い感じがいたします。

そこで、ここに改めて、みな様の御教導と御協力をお願いして御挨拶に代えますとともに、芝蘭会報に述べました抱負が、ここ半年の間に、どの程度実現しつつあるかを少しく御紹介しておきたいと存じます。

私は、芝蘭会報に述べましたように、また恩師長石名誉教授の御教訓のように、教室員の各々がその処をうるという状態を第一の念願としておりますが、現状、少なくとも内部では、ほぼ満足すべきものと考えております。

就任以来、私は、教室においては、何の規制も設けず、ひたすら、私なりにみた肝要な研究ならびに臨床面でのテーマの話をして参りました。

教室の規律は、教室員が自ら規制すべきものという私の信念からでありましたが、幸いにして、教室員各自の自覚により、次第に規律が生じてきております。

このことにまして私が嬉しく感じますのは、みな、毎日を楽しく、充実して暮しているようにみうけられることであります。

このように、私の当初の抱負の最大のものがほぼ達成されたようでありますが、これから、この自らに課して、生活に悔いのない毎日を送るという気持ちを教室の伝統として維持してゆきたいと考えています。

さて、このように、毎日が気持ちのよいムー

ドの中にあり、従って自ずと研究の方も形が整い、よい仕事の芽も出て参りました。

研究の方向は、現在、(1) 免疫(胸腺外科、臓器移植)、(2) 人工組織・人工臓器、(3) 腫瘍の3つに分れていますが、現在、人工組織の領域でかなりの成果がみられ、ここ暫らくは、人工組織に重点が置かれそうです。

このような好ましい状態が築かれつつありますのも、一重に新しいスタッフの方々の努力と自戒によるものであります。

そこで、新しいスタッフの御紹介を簡単にしておきたいと思ひます。

◎ 人見 滋樹・助教授・昭36・京大医

人となり、一見温和、しかし芯は強く、研究面での着想も鋭い、現在免疫の方を担当しています。

◎ 山本 博昭・講師・昭36・京大医

明朗で、しかもタンクのように力強い実行力があります。それでなお、情勢をよく酌みとっています。研究では、胸腺とともに人工血管を担当しています。

◎ 伊藤 元彦・助手・昭38・京大医

冷徹な頭脳、研究面では腫瘍を担当していますが、切れ味抜群、今後は、人の短所を長所に代えるよう、そして自分の役に立てるよう期待しています。

◎ 島中 陸郎・助手・昭40・京大医

素直で、教室内での潤滑油ともいえます。研究では胸腺を担当していますが、少し注文をつけるならば、負け試合を逆転させるだけの粘りと力とを身につけて欲しいと思っています。

◎ 甲斐 隆義・助手・昭36・京大医

現在、Essen の Ruhrland Klinik に留学中。

以上が現在のスタッフですが、その他に、医員ではありますがライターとして働いてもらっている方に、

◎ 安倍 隆二・医員・昭38・久留米大医
があります。九州男子の長所を如何なくみせてくれます。研究面では人工組織、とくに人工気管でよい仕事をしています。

医員として、現在、上記の方々以外に、松原

義人・昭40・京大医、他数名の方がいますが、紙数の関係もあり、次の機会に御紹介しえたらと存じます。

不十分なままではありますが、これを以て、就任の御挨拶とスタッフの御紹介ということにさせて載きます。

今後ともよろしくお願いいたします。

昭和46年9月21日